

## 〈編集後記〉

2009 年夏季実態調査報告をお届けする。

今回の調査の前半では堺を駆け足で巡った。そのように思えて仕方がない。古墳時代からの歴史があり、産業も鉄砲製造、たばこ包丁からの歴史の中に息づいており、菓子も室町末期から 27 代を数える店もある。それでいながら、液晶パネルでは第 10 世代の世界最新の工場も稼働しており、2 日では堺の奥深さに気づくのがやっとであった。

さて大和川を越えると大阪市から堺市に入る。また専修大学生田校舎のある川崎市も多摩川を越えたところで東京都と接しており、重化学工業地帯という点でも共通点を有する。こうした大都市と踵を接した周辺メトロポリスの共通性に着目して本学文学部社会学専攻（2009 年度現在）所属の本研究所所員グループが「周辺メトロポリスの位置と変容—川崎市と堺市を中心に—」というテーマでこの間研究を続けてきており、奇しくもこの月報と同じ時期に専修大学社会科学研究所叢書第 12 巻として『周辺メトロポリスの位置と変容』が専修大学出版局から上梓される。この叢書第 12 巻もぜひご覧いただきたい。実は今回の実態調査はこの研究グループの伝を頼りにして計画された。

今回その伝を頼りに窓口になっていただいたのは堺市産業振興局商工労働部ものづくり支援課主幹辻林 博氏ならびに社団法人堺観光コンベンション協会観光プロデューサー井本照夫氏で、辻林氏からは見学先のアレンジ・コーディネートだけでなく、堺市訪問の初日に「堺の伝統産業」のレクチャーも賜った。井本氏からも見学先のアレンジ・コーディネートだけでなく、臨海部、市内の伝統産業の案内を賜り、堺の歴史に関して造詣の深いお話を伺った。ここに重ねてお礼申し上げる次第である。

辻林氏だけでなく、初日にレクチャーを賜った堺市産業振興局商工労働部産業政策課企業立地担当参事金本貴幸氏、堺市産業振興局商工労働部ものづくり支援課新事業係長清水秀行氏のパワーポイントの配布資料を掲載させていただいた。掲載快諾いただいたことにも感謝申し上げます。

2001 年度より、社研の実態調査は国内調査も必ず報告書を刊行してきた。今回初めて調査時にいただいたレクチャーの内容も報告書に盛り込むことになったのである。貴重な資料を広く公開すべしとの町田所長の発案である。今後とも実態調査の報告書にはこうした貴重な資料を掲載していく所存である。

堺の奥深さに感じ入りつつ、数年後にはまた堺調査を実施したいと希望し、後記を閉じたい。

（宮寄晃臣）

---

神奈川県川崎市多摩区東三田 2 丁目 1 番 1 号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

（発行者）町田俊彦

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前 2-10-2 電話 (03)3404-2561

---